わはりいた。機内には青地に炎のもようのついた什ッカ・日本代表のサポータ・らしき人物がいる。でもその内2人ほど、切れだったか、エセジャージを着ていた。

アエロ機内。

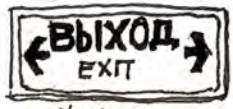
スッキーにビールを頼むと、こんなのがでてきた。しかもヌルい。ビールは冷やすもの、という常識が、ウォッカの国にはないらしい。
はどってとない、ツーのビル。
ルスナーケルと読めるが…。

ロフロートの朝食。ハムとポテトサラダなかなか旨い。しかし本来なら、今の時は晩めしのハズである。強制的に慣られて…ゆ・ゆれる。…るみたいでなあ。

マドレーヌは子供の時は大好きだったけど、口の中に水分がなくなって困る。
なぜかちまき風の押し寿し。
ニビニぶりズい。
日本でもおなじみの魚の形のおしょうゆ入れ。
このバター、塩加減がいいカンジ。おいしかった。
タンっぽい。

モスクワ空港からトランジットして乗り換えたのは、同じアエロフロートの299便。えっらい古いひこう機。しかも天井が異常に高い。かるく2m80位あるかも。修学旅行かしらんが、ちびっ子がたくさん乗っていてやかましいのだ。ピーロ、とかへんな鍋のおもちゃをガーガーならしている。しかしこの飛行機が仮に事故したら、「ありゃあ、しょーがねえ。おちるよ。」といわれてもおかしくないボロさである。

この音がもうガタガタ。



これがロシア版「非常口」。
なんとよむのか。
なんでこんなに大文字と小文字がバラバラなのか。
ちょっと面白い。
習ってみようかねえ。

ロシアの子供たちは元気がよい。
東洋系の顔に金髪というボクのいでたちが珍しいのか、特定の2・3人の子がじっと見つめてくる。
横に座ったかと思えば、ギャーギャーと騒いだり…。
しかし、ロシア人の顔は、やはりロシアって顔だねえ。
どうも体操しそうなカオだちである。
ナニトカニコフなんていう名前がピッタリである。
さて、いよいよ、マドリッド・バラハス空港へ到着ですよ。

Mad Kid

Hotel Puerta de Toledo
のすぐ脇の公園らしきところ。
日がのぼって初めてみるスペイン。
一人で外に出た瞬間からウレシくて
笑っていた。きもちわるい日本人になった。
まっと何の変てつもない風景だろうけど、
日本から来たスペイン初心者にとっては、
その風景すべてが鮮烈だ。
3時間くらい、ベンチに腰かけて
スケッチしている時間が、なんとぜいたくなことか。

ピンクのタイルが一面にギッシリ。
こんなセンスが日本にもほしい。
ま、あんな街にあったら浮くだけか。

マドリッドには夜中の11:00に到着。
風邪がひどく、鼻水、ノドの痛み、熱の上に
長い時間同じ姿勢でいるつらさが、体をボロボロ
にしているような気がする。日本でロクに眠ってないの
で、飛行機では無理矢理ねむった。
空港から直接タクシーで最初の宿"Hotel Puerta de Toledo"
へ向かった。6000pts位ときいていたが、
4250ptsですんだ。安かったのか？
ホテルは中々こぎれい。ついてスグにねむった。
朝7:00に目覚める。日本での生活がすでに
時差ボケ生活なので、なんら苦にならない。
久々にベッドでねたからか、体調も良くなってきた。
8:30頃朝食をとりにいく。エレベータに乗ってくるアメリカン
らしきツーリストが"Good Mornin'"と声をかけるので
"チーッス"とかえす。
朝はハムとチーズ、パンにコーヒーとミルク。
ハムはおいしかったが、1つだけ酸味のある濃いのが
ちょっとダメだった。
10:00にチェックアウト。何度か試みて結局つながらなかった
国際電話は、結局料金をとられなかった。ほ。
すぐ外に出て、スペインの予備知識を蓄えることにする。
雲のかけらもない晴天。あついが乾いている。
風が吹くたびに汗がスッとひいて、
スペイン風味の空気を実感する。

マドリッドはスリのメッカときいていたので、多少用心はしていた。
でも、まぁ、パッキンの東洋人の男なんて、そうそう狙わんだろ、
やられたところでとっつかまえてゲンコってかんじ。
と思っていたら、横っちょにビッコをひきながら、ボクと歩調を
あわせる若いにーちゃんがやってきた。あやしすぎたので
「てめー、よるんじゃねぇ」が言える位の間、グラサンごしに
にらみつづけると、前の2人組のアメリカ女性のハンドバッグ
に、「スッ」と手をのばした。はじめてスリをみた。幸い
未遂に終ったようだけど、やっぱいるわ、ここ。
あと、このパッキンが災いしてか、「コカイン いらねーか？」
と2回声をかけられた。おもわず手がのびそーになった
けど、やめとした。お金もないし。

服は汚れてはいるものの日本みたく重ね着するでも
なく、しっかりしていた。オシャレか？

髪の毛は日本同様
油ナホコリで東状に
なっている

なぜか
みんなカミコップ

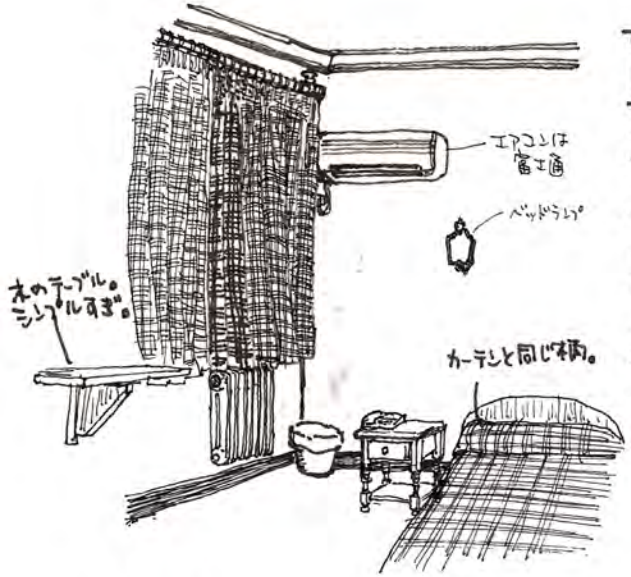
この人は1日中この格好だった。
その忍耐がありゃ、工場の流れ
作業の一部くらいできるだろうに。

マドリッドには乞食がたくさんいた。
日本と決定的に違うのは、みんな物
乞いしているということ。なぜか同じ
紙コップである。だいたいは自分の
前にコップをおいて、ねてるか、
グズグズしてるのだが、中には
立って「金くれー」と近よるやつ
いる。日本人をみならえ

スペイン広場へ来た。囲りは近代的なビルが立ち並んでいて、ここは日々谷公園といった風情である。セルバンテス像は、囲りを工事のサクにかこまれていた。あるハズのドン・キホーテ像と、サンチョ・パンサ像がなかった。しかし、スケッチをしていて思うのは、いちいち細工がこまかい。大変な苦労を伸ぶと同時に手がいたむ。

お昼に食べたボカディージョのひとつ、"Caramares"は、ウンマイ。イカリングがたくさん入ってるだけなのだが、バクバクいけて、かなりなボリュームにもかかわらず、あっという間に胃袋へ。しかし、Cafe con leche がなかなかでてこなかったのがくやしい。

サン・セネス教会の向かいにある建物。造りがかわってて面白かったので日陰に腰を下ろして描きはじめた。
朝からプラド美術館とソフィア王妃芸術センターへいって足がクタクタだったので足休めのつもりでもあった。
ピカソのゲルニカは、やっぱり感動的だった。本物を見る機会なんて、そうそうあるものじゃないし、来てよかった。しかし馬のカオがどうもはじめ人間ギャートルズにでてきそうでコッケイではある。
この絵をかいてるとき、いろんなことが起った。美術の学生らしき数人にのどきこまれ、「ニッ」と笑顔で手を振られた。
それから小さいけど業務用っぽいVTRからきもったにーちゃんとねーちゃんに「そのまま絵をかきつづけて!」と言われ、なんかのVTRを撮られたもよう。
そして、そして。マヨール広場で大きな集会が開かれていて、その参加者の一部が、どんどんボクの囲りに腰をすえはじめた。何を言ってるのかわからんので無視して描き続けた。仲間をからかってるのか、ボクをからかってるのか、かなりウルサイ。ちょいと顔を見やるとボクに視線はきてなかった。うむむ。
どんどん周りにスペイン人が溜まって、多勢に無勢状態。キリのいいとこで引きあげてしまった。もう少しかきたかった。
そういえば今日(20日)、ソフィア王妃芸術センターで、アメリカ人らしき男性に「Do you speak English?」と問いかけられた。「Little.」とこたえると、そのジャケット、どこでかったのかときく。
「Japan」とこたえると、ジャパン…ジャパン…と2回くりかえしてグックリしていた。
かっこいーだろー!へへーん。



マドリッドで3晩お世話になった
Hostal Madrid。地球のあるき方で
すすめられるがままに足を運んだが、
入口と部屋のカギを渡してくれるし、
ちょいホモッぽいにーちゃんは愛想よく
英語もしゃべる。部屋はシャワーとエアコン、
TVもついていて、日本ークロアチア戦も
見ることができた。まけたけど。
ベッドはぷにゃんぷにゃん。でも
ある分には十分。これで1日5000pts.
ちょいと高い気もするが Puerta del Sol
から歩いて2分なら、まあいいか。

ちょいと夜おそくかいたから、ヘンですなあ。
ねむい。明日はコルドバ。

ROCAというメーカーのトイレが備わっていた。
どうやって流すのかとまどったが、とてもかわいかった。

このノブを上にクイッと1回ひきあげると
ドババーーッと流れる。
ボクのないウンコもあっという間に
消えさるのだ。

これもまた
いびつに
なった…。

しかし、20日にマヨール広場で行われた集会は
なんなのか。たくさんの人たちが同じ旗をもって
シュプレヒコールをあげていた。しかも街のあちこちで
ピンク色のペンキをぶっぱなしたらしく、銀行や
マクドナルドなどが、窓一面ピンクになっていた。
マックの店員たちは朝からそれを消しおとすのに
一所けんめいでかわいそーだった。
やっぱりスペイン人のやることは派手だなあ。
ラテンって、やっぱり日本人にはついていけないかも。
TVでは暴動のVTRが流れていたけど、
このオスタルからすぐそこの場所だったりする。
日本でもケンカのVTRはよくあるが さすがに
暴動は…。ちょっと日曜は人通りが少なくて
怖い…。さっさとアトーチャ駅へ向かおう。

なんか、こんな柄の
旗だった。
アイとユーで、
君とボク、なんてことは
ねーよなァ、きっと。

さてさて。4泊5日をマドリッドで過しまして、
さすがにこれだけいると、あらかたいろんな所を見て回れて、
大変おもしろい。しかし、やっぱり言葉がしゃべれないのは
つまらんなあ。ほんとにスペインは美女が多い。ざっくり網で
とっても6割は完璧ってくらいスタイルもかおもよい。しかもヘソ出し
が流行らしく、ボディライン くっきりで、ポコチンがいくらあっても足りませーん、
てかんじ。オー、セニョリータ！今度くるときはぜひスペイン語をバッチリ
にしてから来よう。さて、お次ぎは、白い街、モスクが見もののコルドバです。
Puerta de Atocha駅から、スペインの誇る高速列車AVEにのって。
しかし、このAVE、本数が少ない。ずーっと駅のホームに停んだまんま。
原価償却とか考えてねーのかよ。でも、満員にならないってことは、これ以上
[illegible]

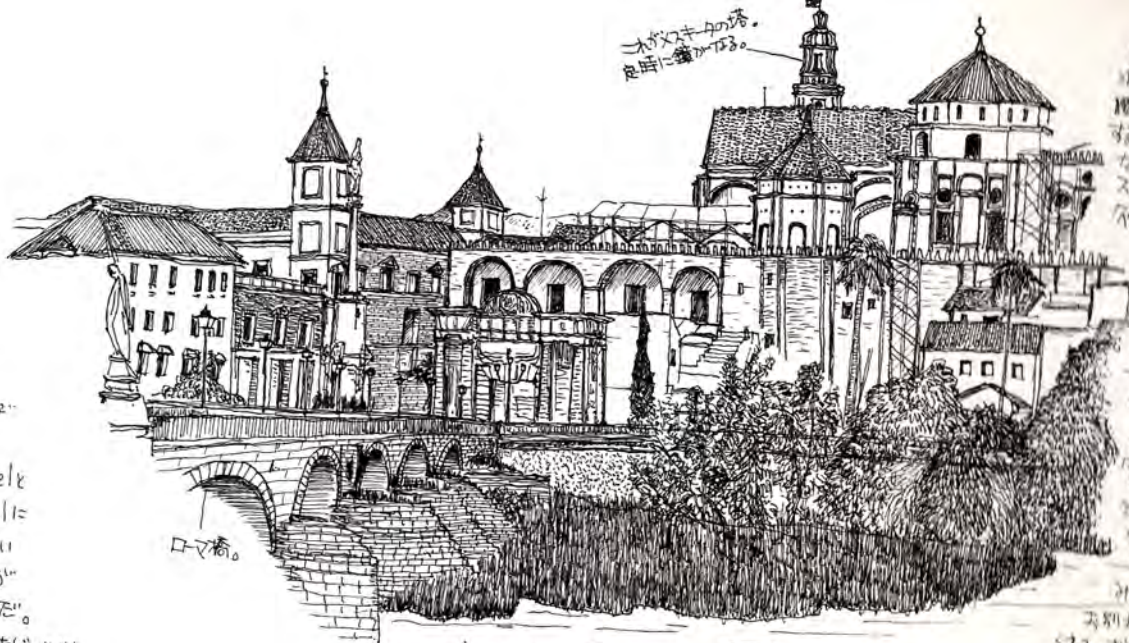
哀しみのボカディージョ〈作詞：ありたけいすけ〉

お、お、おー、おいらはハポネスです
スペイン語はノ・コンプレンド
でもボカディージョ
君はサイコーさセニョリータ！
ハモン・セラーノが一番のような気がする（だって他のをくってないもーん）
お昼にたべればもうおなか一杯
でも時々、その固いパンのまわりのところが
うわあごに突きささる
いたいんだよボカディージョ
きみのいるお店は、なぜことごとく暗いんだい？
でもおいらは勇気をだしてこう言うのさ

Cordoba!

コルドバの駅は、マドリッドみたいに
たくてキレイだった。どうから新駅らしい。
しかし、駅を一歩出ると、うってかわって
殺風景——。なんか砂漠、ってカンジ。
駅でションベンだけ済ませて、早々に
タクシーに乗り込む。行き先は、
「Mezquita. por favor.」

早々に宿を見つける。これも地球の歩き方に
おすすめだなっていたオスタル。
しかし、この Hostal Maestre は Hotel と
Hostal が一緒になっていて、どうやら Hotel に
案内されたもよう。部屋もバスルームもきれい
ではあるが なぜかツイン。2つベッドが
ある所に一人でねるというのは淋しいものだ。
荷物をおいて、さっそくお散歩。グアダルキビール川
があるので 釣り具をもって出かけてみる。
しかし、川をみてボーゼン。まるでコーヒー牛乳。
これじゃ釣る気にもならんわで、メスキータに行ってみた。
外からみると、今にも崩れそうなほどボロボロで、
あちこちで修理の工事がされている。ちょいとカッコ
悪い。中庭に入ってみた。ここまではタダで入れる。
メスキータの廻りの外路樹と同じバレンシアオレンジ
の木がたくさん植わっている。緑の濃い葉の群の
中にしっかりと色づいたバレンシアオレンジがよく
映えている。なかなかイカすセンスである。
ここでひと休みをおうなものかもよ。
750pts.（ちょいと高いんじゃねーか？いまどき
寺みるのにこんなにとるなんざ、日本じゃ考えられん）
支払って中を見物。まア、本に書いてるとおりでした。
よくこんな手間ヒマかけて、作ったもんだよ。でもも
金払って中みるのは、よほどの物じゃなければやめにする。
なんか、つまらなかった。



この川の色は日本にもそうそうない色、汚い。
水が汚れてる感じはしないんだが、なんせ
この色じゃねー。

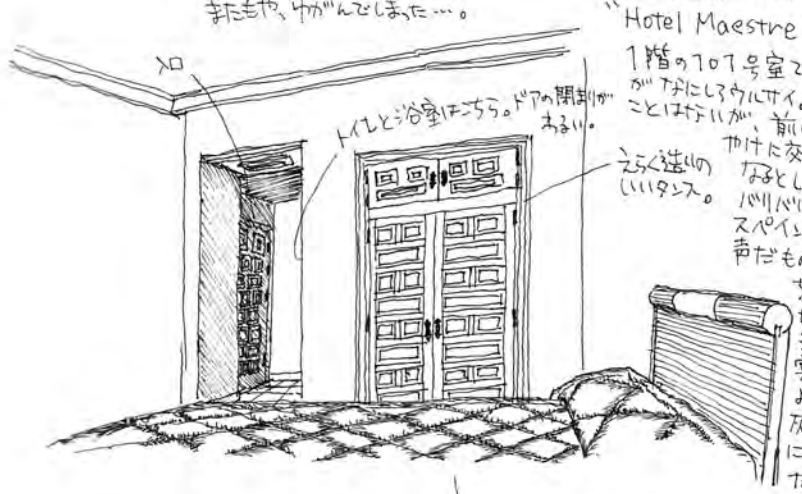
本日のボウの11こたちはめちゃめちゃ。
おやしい東洋人になり、じろじろみられた。
とにかさず日本人にあわなかったのでよかった。

ここコルドバで、名物料理を食ってみた。もう一人でもレストランに入るのは慣れた。
隣のカップルが「あーん」とかいちゃつきながら、しげしげとこっちを見つめたりする。
なんでやろはじろじろ見るのか。メシ中か？

ガスパチョ。ちょっと酸味があって
いろんな野菜がたっぷりってかとんで
とてもおいしい。ボウルって位の大き
さの器にこれまたなみなみと注がれて出てきた。でもすっかりたいらげた。

絵でかいても なんのことやらよくわからん。

Robo de Toro。牛テールの煮こみ。
おいしかった。しかしねぎしの牛タンみたいだった。まあ同じ牛のだからしゃーないな。

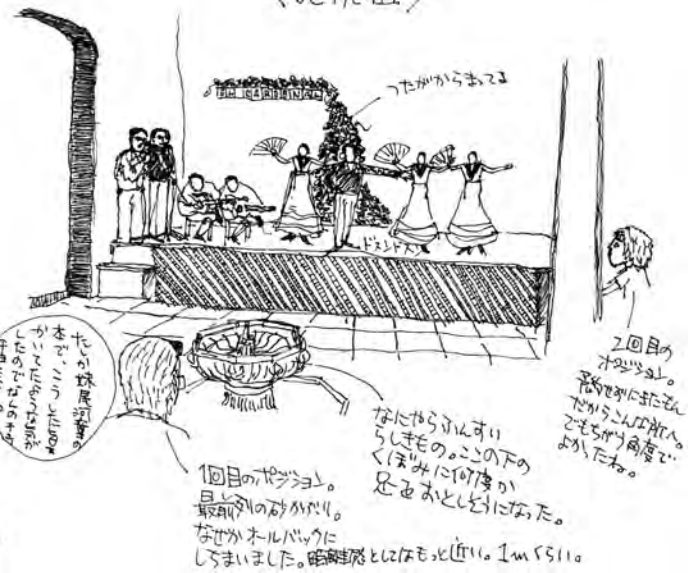


またもや、ゆがんでしまった…。

Cordobaで3晩お世話になった"Hotel Maestre"。
1階の107号室で出入りは楽だったがなにしろウルサイ。べつに眠れなかったことはないが、前の道がせまいくせにやけに交通量が多い。夜になるとしゃべってる声とかもバリバリきこえるのだ。スペイン人ってホントでかい声だものだから、ウールサイ。
ちなみにここにはビデが備わっていた。洗たく機にしてみたら案外使い勝手がよかった。しかしTVも灰皿もゴミ箱もないのに1日6000pts.たかいぜ。と、思ったら隣では1日3600pts.とのこと。どうやら、スペインでは部屋さえ空いていれば広い方を使わせてくれるらしい。良心的である。

RENFEのAndaluciaExpressにてRondaへ
ゆれてくちゃくちゃわ…
でも列車より快適。
景色が最高にいい。
ヒマワリ畑がいっぱい!
オリーブもいっぱい!
スペインっていーなー!
気持ちよいのうー。

〈記憶風〉



コルドバで、スペイン初のタブラオへ行った。
メスキータの横にある「カルデナル」。
本来は中にステージがあるらしいがこの季節はとりからパティオの特設ステージがタブラオになるらしい。
屋外、ってことでとても気持ちがよい。
初日は宿で予約をとってもらっていってみた。ソレア、アレグリアスなどなど、3~4人のバイレたちが同じふりでおどる。
最後は、「会場のみなさんもご一緒に!!」てな感じで手拍子をはじめ、とても楽しく時間がすぎていった。
テクニック自体は、カンテもギターもバイレもたいしたことないと思えた(日本でみたのが上等すぎる、ってことか。)。
2日めは、レストランでかなりワインをのんで、気持ちよくなったついでにフラッと寄ってみた。レセプションのおっさんに予約がない旨を伝えると、ちょっと困った顔をされた。「あんた昨日いたでしょ?なんでわかってないの?」みたいなことをいわれ、ステージ横のヘンな席に案内された。でも昨日と違う角度というのもなかなかよい。2回目のときはソロでおどるバイラオーラがいて、この人は終構迫力があってよかった。中休みをはさんでおおよそ2時間。ようやくアンダルシアに日が暮れる10:30から、12:30まで。日本ならすでに終電がない。でも、この時間まで楽しくすごしてこそ、スペインを味わった気分になれる。
そういえば2日目、アメリカ人のご老人たちご一行がとても陽気で、いろいろ話しかけてくれて面白かった。英語はちょっと安心できる。

RONDA

コルドバからアンダルシアエクスプレスに乗り、ボバディーリャで乗り換えて、ロンダに到着。途中、広大なひまわり畑やオリーブ畑を幾度と過ぎ、ボバディーリャから止まる駅はセテニルをはじめ、白い街並がこじんまりとまとまった、たいい感じだった。ここロンダは切りたった崖、ぴったりに沿うように古い街並の残る景色がある。人口3万人だから、ウチの田舎くらいのものか。

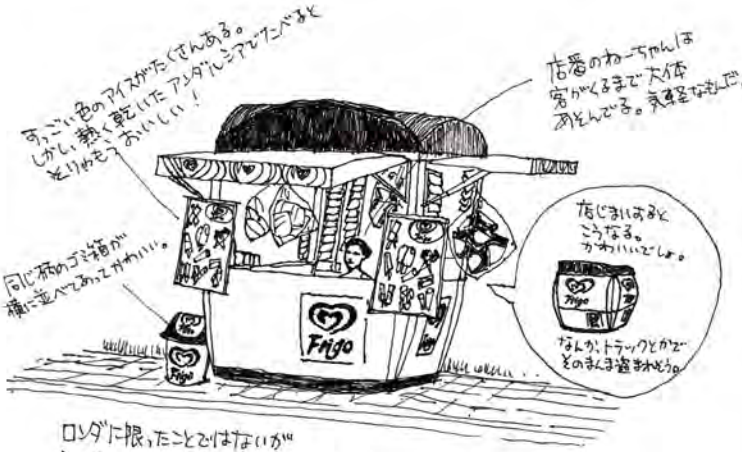
しかし、この町は工事が多い。50m も歩けばなにかしらぶっこわしてるか修理してる。コルドバも多かったけど、その比じゃない。ロンダではどこからか土建屋が繁盛しているようす。

さっそくロンダの闘牛場に足をはこぶ。この闘牛場はスペインでも最も古いもののひとつらしく、もともと馬にのって牛を殺していたところを、フランシスコ・ロメロというロンダの闘牛士がはじめてムレータと剣で牛をたおしたらしい。なかなか誇り高い Plaza de Toro である。闘牛場の中に立ってみる。なかなかこんな機会もない。ここで雄姿な牛が走りまわり、血を流し死を全うしているのだと思うと牛の気持ちになったみたいでやだった。でもなんか、数々の英雄が育った舞台にたってる気分はいいものだ。武道館のステージに立ってるカンジか。博物館の方はあいかわらずつまらん。コルドバでも闘牛博物館に入ったが、結局、耳をそがれた牛のおくせいな数々の闘牛の写真、マタドールやピカドールの衣しょうの展示があるだけだった。博物館を出る頃、日が傾き、闘牛場に影ができていた。SOL と SOMBRA がくっきりと分かれている。なんか感心した。

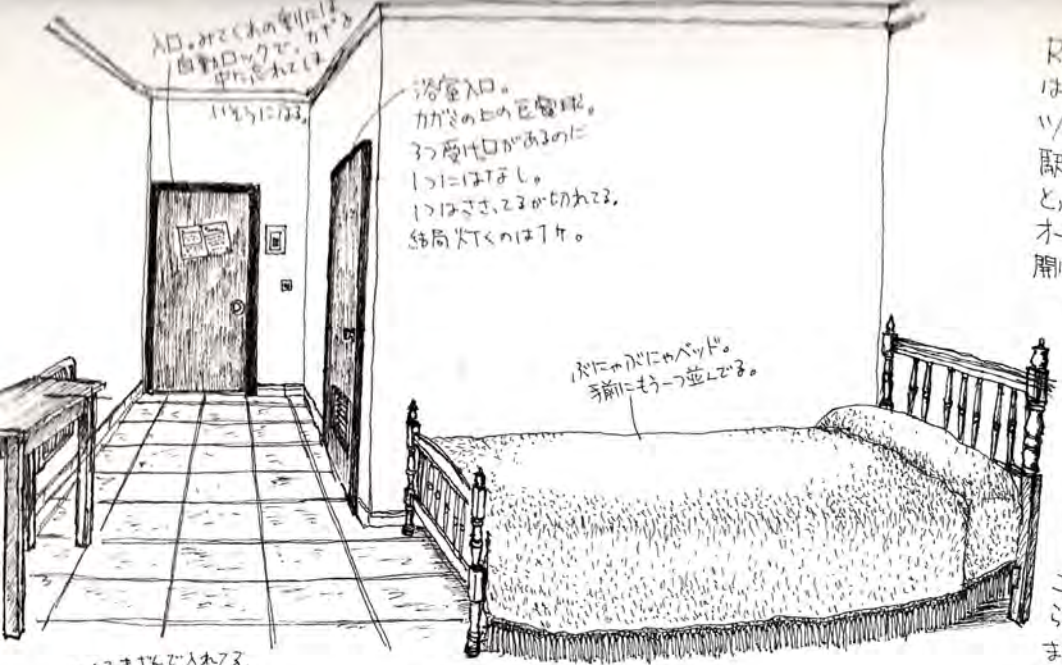
闘牛場の脇にある広場からの風景。まことに素晴しい景色じゃ。うむ。セニョリータたちが記念写真をとったりしている。ちらっとパンツが見えた。ケケケ。この風景を眺めている顔をそのまま右手に90度向けると、広大な草原が一面に広がることになる。ほんとにいい所。おーっとボケてるにはいい場所。

深い峡谷。深く100mはある。橋が揺れてとおるくと足がすくみ、手にもってるカメラさ落としやしないのに落としそうな不安感がおそうのだ。下には細くうねったグアダレビン川が流れる。なんか釣れそう。

昼食に食べた Sopa de Rondeña は セロリ、パセリ、それからナッツみたいなのが入ってて、淡白な味がとってもよかった。

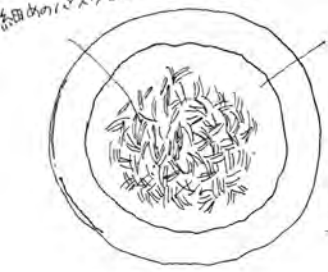


ロンダに限ったことではないが
この小さいがかわいらしい Frigo というお店が街のいたる所にある。
もう一つ Nestle 系の Camy という看板をつけた店がしのぎをけずっている。
アイスクリームをはじめ、ミネラルウォーターからビール、いろんな種類のお菓子などがところせましとぶらさがっている。たいていは中学生位の女の子やニーちゃんが店番している。よくここでつかった。



RONDAで3日間おせわになったHOSTAL ANDALUCÍA。
はじめてシャワーの水圧と温度に満足できた。ここでもやはりツインルームに案内されたけど、はたしておいくら？
駅の目の前にあるので、駅からすぐに荷物をおけるのでありがたい。
とってもかわいらしいオスタルで、庭にいろんな花が飾ってあった。
オーナーは老夫婦。玄関を入るときにいちいちチャイムを鳴らして開けてもらわなくてはならないのがしちめんどくさい。
部屋の方はなかなかこぎれい。浴室も広いのだが、なぜかバスルームがこんなレイアウトでとても使いづらい。
しかもシャワーをひっかけるところが欠けているため、両手が自由にならないという不便はある。

まぁ、日本での生活ってものが、そうとう満たされていることにあらためて感謝だね。
コルドバと同じく街路に面した1階（スペインではこの場所がおすすめらしい）だもので、えらハウルサイ。だいたいバイク連中がけたたましい騒音をまきちらしてくれる。スクーターが流行りらしくて、PIAGGIOのやつとか、なかなかカッコよい。それと、カブっぽいやつでカウルの全くないvespinoとかいうバイク（おそらくベスパ系）も、ロコが乗ってると絵になる。日本人だと配達ってカンジになると思うが。しかしコイツらよく見りゃだいたいマフラーかえて走っとる。チャンバーではないのだけど、おそらく音を大きくするやつにかえてるんだな。ボクも学生んときは同じことやってたし。
こいつが街ん中をバリバリ走るとスゴイうるさいのだ。
しかし、どうやら慣れたらしく、しっかりシェスタをとり、再び午後の街へくり出すのだった。
※なんと1日2500pts.やすう——。ありがと、おばちゃん！



本日（6/26）に食べたお昼。
Combinatos Platosと一緒にたのんだチキンスープがとても旨い。
おもわずおかわりってくらいイケた。
ああなんてことはない、トリのだしジナなんだけど、細かく切ったパスタがたっぷり入っていて、ラーメンを思いだす。
あ——、じゃんがらがたべたいっっ！

Combinatos platosはオエ——！
ラムチョップをたのんだのがまちがいだった。
くさい——！くえん。でもくった。
犬がほしそーに見つめたので1枚あげたらよろこんでたべてた。そしたらそのペロくんはクセになったらしく、ボクの傍らに腰をおろしじ——っと見つめつづける。かわいかったので食べつこしをあげたところで店員に追いまんわれた。ペロ！アディオース！

サイテーなラムチョップ
かたいしくさい。
脂んとこくうときゲロが出そうになった。

ロンダをあとにする。今度はバスの旅。
バス・ステーションで11:00のヘレス行きを確認しといたので10時頃行ってみた。そしたら窓口がその会社だけ閉まってる。何回かしょんべんするのにここを使ったが、そのたび閉まってたので、やはりいいという感じである。やばい。どーすりゃいいい？
とりあえず辞書でしらべて「ヘレスはどういけるの？」と違う窓口のおっさんに聞いたところ「11時にでる。チケットはバスで買え」らしき単語を耳にした。ちょっと安心。ちゃんとバスがきて無事のることができた。素晴しい景色をみながら、今度は道路を走る。
ボクの前にはカップル。二人でぶちゅぶちゅやって、一人身を1週間以上続けている体にかなりこたえる。途中、アルコス・デ・ラ・フロンテーラに寄った。行こうかどうしようか迷ってた街。いくまでもない。もはやアンダルシアは、どこも白い街だ。

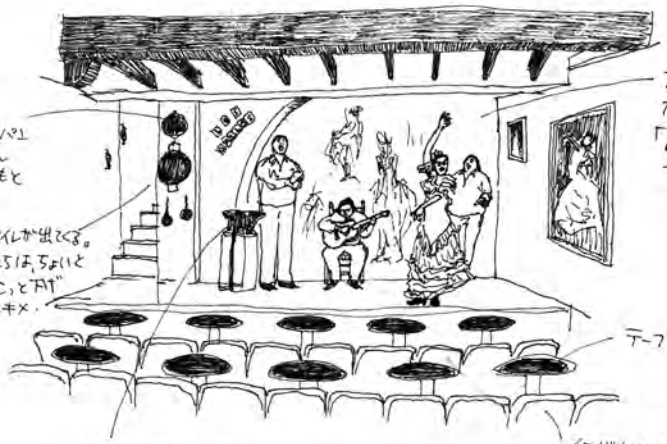
しかし、ロンダは3日もいるもんじゃねーな。にぎわってる通りが一つしかないんでできるだけ知らない道を通ろうとするが、ついそこを通る。この3日間で10往復くらいしてるゾ。きっと、「あのヘンなやつ、また歩いてる」とか思われてるに違いない。目立ちそうだしなー。

アルカサルの近くを歩いているとき、にーちゃんに声をかけられた。
「フラメンコ見ないか？ロスガリョスにエルアレナル、なんでも揃ってるよ！」。もともと見にいくつもりだったので「Si！Si！」と寄ってみた。ロス・ガリョスに行きたい旨を伝えると、いろいろ説明をしはじめた。「ロス・ガリョスはいいぞ！エル・アレナルだとマイクからアンプを通してスピーカーで音を出すが、ロス・ガリョスは生音だ。出演者もいい。エル・アレナルは200人収容のデカさだがロス・ガリョスは50人。15分前までに入らなきゃ、いい席は取れない。ただし、1列目はよくない。近すぎて音もウルサイし、みづらい。見るなら4列目以降だ。ふつう、5時すぎると、ロス・ガリョスのチケットは手に入らない。君はラッキーだ。」などと、パンつをごちゃごちゃだしながら、えらくクドイ説明をくり広げる。さらには地図を広げながら、「今、ここにいるでしょ。チケットの予約センターはここ。すぐそこだから、一緒に行こう」この辺で、そうとう怪しい人間だと思った。ある程度肝をすえて一緒に行ってみた。
みやげ物屋に通された。奥のレジまで行くと店のおやじがいて、そのにーちゃんがロスガリョスのチケット1人分。9時からだ、と伝えた。いったいどれ位のマージンが乗っかってくるかと思いきや、正規の3000Pts.だった。このにーちゃんが案内料でも請求するかと思いきや、それもなく、「グラシアース！」と言って別れた。どうやら、このみやげ物やから、にーちゃんがマージンをもらっているらしい。どうりでみせのおやじがいい顔してなかったもの。そりゃ当然だ。おれが一人で買っても3000pts.だし、その方がまるもうけになるのだからねぇ。

うそっぱちも含まれてる。アレナルも生音だ。そしてやはり1列目がいい。そして7時すぎでもロスガリョスは入れます。

このにーちゃんは、よく日に焼けた、ちょいとヤサ男っぽいにーちゃん。道で何度か会うたんび「Hello！Friend！」と声をかける。なかなかいいにーちゃんだ。おもろい。

9:00からロス・ガリョスへ行った。席に案内されると、あのにーちゃんが勧めていた4列目にあたった。でも結局、ギターに関心のあるボクとしては、前にいる客のアタマが邪魔でしょーがない。なぜか1列目はあとに埋めていた。満員御礼状態。イスが小さくてとなりの人と肩が触れる位のせまさ。周りがカップルばっかりなので、ちょいと肩身がせまい。ドリンクはサングリアを注文した。ショーはさすがロス・ガリョスといった感じ。コルドバのエル・カルデナルとは格の違いを見せつけてくれた。ギターもカンテも、バイレも、みなレベルが高い。かっこいい。アレグリアス、ソレア・ポルブレリアス、シギリージャ、タラントなどなど、楽しませてくれ、最後はセビジャーナスでしめる。会場も大盛りあがり。とても楽しかった。来られるだけ来たい。



後の方でおっちゃんが照明をカチャカチャ切りかえる音がして、なんか、かわいらしかった。

2階にも席があるのだが、どうやら出演者の控え室になってるもよう。よくカンテの人が上をみては何か声をかけたり、キメのポーズのときに上から「オレーィ！」などとハヤしたりしていた。